西堂（にしのどう）・井原（いわら）の文化財

福岡雷山ゴルフ倶楽部建設に伴う埋蔵文化財調査の速報１

１９９５

前原市教育委員会

Ⅰ．はじめに

福岡雷山ゴルフ倶楽部の建設に伴い埋蔵文化財の発掘調査が始まったのは平成５年９月のことでした。その発掘調査も今年度をもちまして一部を残し、そのほとんどが終了しました。この間、川原フスボリ遺跡をはじめとする多くの遺跡を調査してきました。調査された遺跡はそのほとんどが古墳でしたが、住居跡や掘立柱建物跡、火葬された墓などもありました。なかでも長さ7.4ｍにおよぶ大型の横穴式石室をもつ西堂赤井手１号墳、墳丘と石室がともにほぼ完全な形で残されていた井原清太夫１号墳、火葬された墓が発見された西堂正永遺跡などの調査は印象に残るものでした。

ところが、残念なことに多くの古墳はすでに盗掘を受け、破壊されており、遺存状況は良くありませんでした。しかしながら調査で得られた成果は、かつてこの地に住んでいた人々の生活の一端を明らかにするための貴重な資料となります。今後は出土した数々の遺物を復元し、発掘調査の成果をまとめた報告書の作成を行う予定です。

また、ゴルフ場の用地内からは多くの遺跡が発見されましたが、盛土施工や設計変更などにより可能な限り現地に保存することができました。とりわけ前方後円墳を含む20基以上の古墳で構成される、井原トリノス古墳群を施工範囲から除外していただき、現状保存していただいたことの意味は非常に大きいといえます。

Fig.1　調査風景

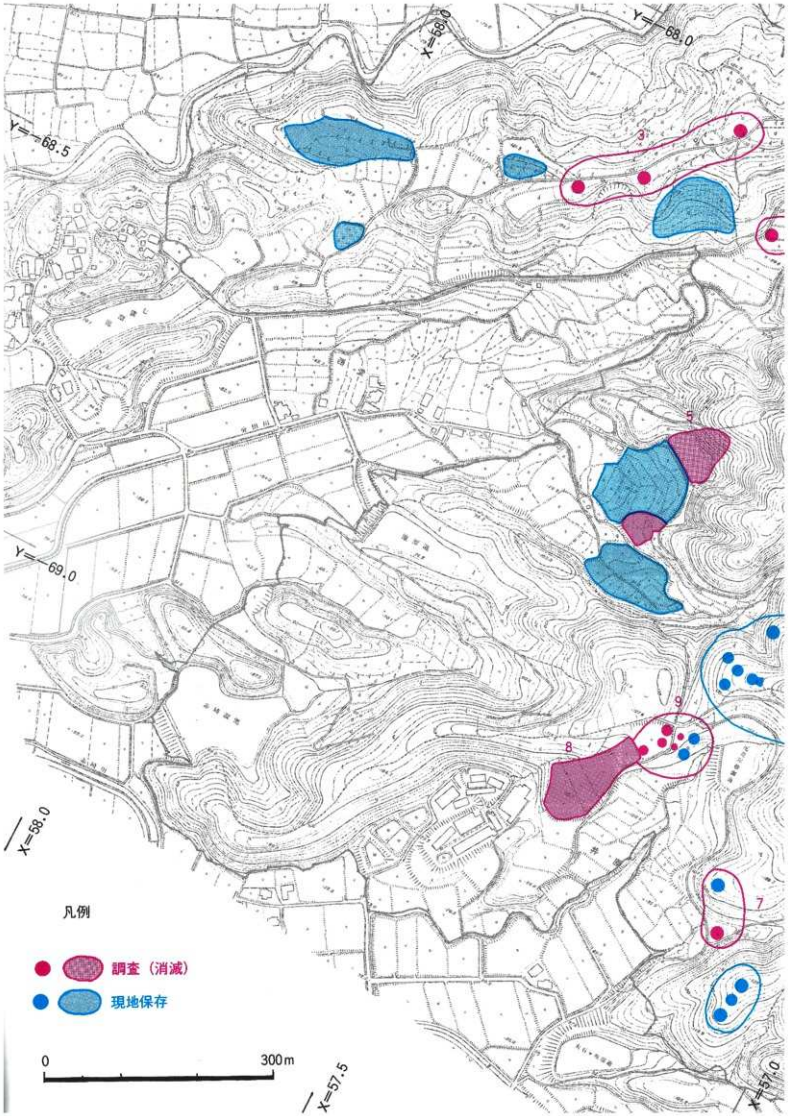
末筆となりましたが、施工主である株式会社ラインビルディングにおかれましては、文化財保護の本旨を充分にご理解いただき、多大なご協力をいただきました。また、清水建設株式会社をはじめとする施工業者の方々には、発掘調査にあたり多くの便宜を図っていただきました。ここに記して深謝いたします。

本年度の発掘調査に関わる組織は以下のとおりである。

施 工 主	株式会社ラインビルディング	
調査主体	前原市教育委員会	
総　　括	教 育 長	樗木　昭生
	教育部長	中原　直国
	文化課長	井上　尚
総括・調査	文化課文化財係長	川村　博
庶　　務	同　文化振興係長	清水　真澄
調　　査	同　文化財係主事	角　浩行・瓜生　秀文

Tab. 1　福岡雷山ゴルフ倶楽部用地内埋蔵文化財調査概要一覧

番号	遺　跡　名	遺　跡　の　概　要
1	川原フスボリ遺跡	土坑、溝、ピット、遺物包含層などを検出 土師器、石器が包含層から出土 時期は5世紀～近代
2	川原田代遺跡	土坑、ピット、遺物包含層などを検出 須恵器、土師器、石器が出土 縄文時代、奈良時代
3	西堂赤井手古墳群	円墳3基 須恵器、土師器、鉄器、 古墳時代後期（6世紀中頃～後半）
4	西堂田代古墳群B群	円墳2基 須恵器、土師器、鉄器、耳環、玉類 古墳時代後期（6世紀後半）
5	西堂正永遺跡	A地区　住居跡、炉跡、土坑、火葬土壙、ピット、遺物包含層 須恵器、土師器、鉄器、石器 B地区　土坑、溝、ピット、遺物包含層 須恵器、土師器、石器 古墳時代～近世？
6	西堂田口古墳	円墳 須恵器、土師器、鉄器片 古墳時代後期（6世紀後半～末？）
7	井原滑太夫古墳群	円墳2基（うち1基は現状保存のため未調査） 須恵器、土師器、陶器、磁器、鉄器 古墳時代後期（6世紀後半）
8	井原尾花屋敷遺跡	掘立柱建物、土壙墓、土坑、ピット 須恵器片、土師器片 時期は不明
9	井原尾花屋敷古墳群	円墳7基（うち2基は現状保存のため未調査） 須恵器、土師器、陶器、磁器、鉄器、耳環、石器 古墳時代後期（6世紀中頃～末？）


Y=68.0
X=58.0
Y=68.5
3
5
Y=69.0
9
8
7
X=58.0
凡例
調査（消滅）
現地保存
0
300m
X=57.5
X=57.0

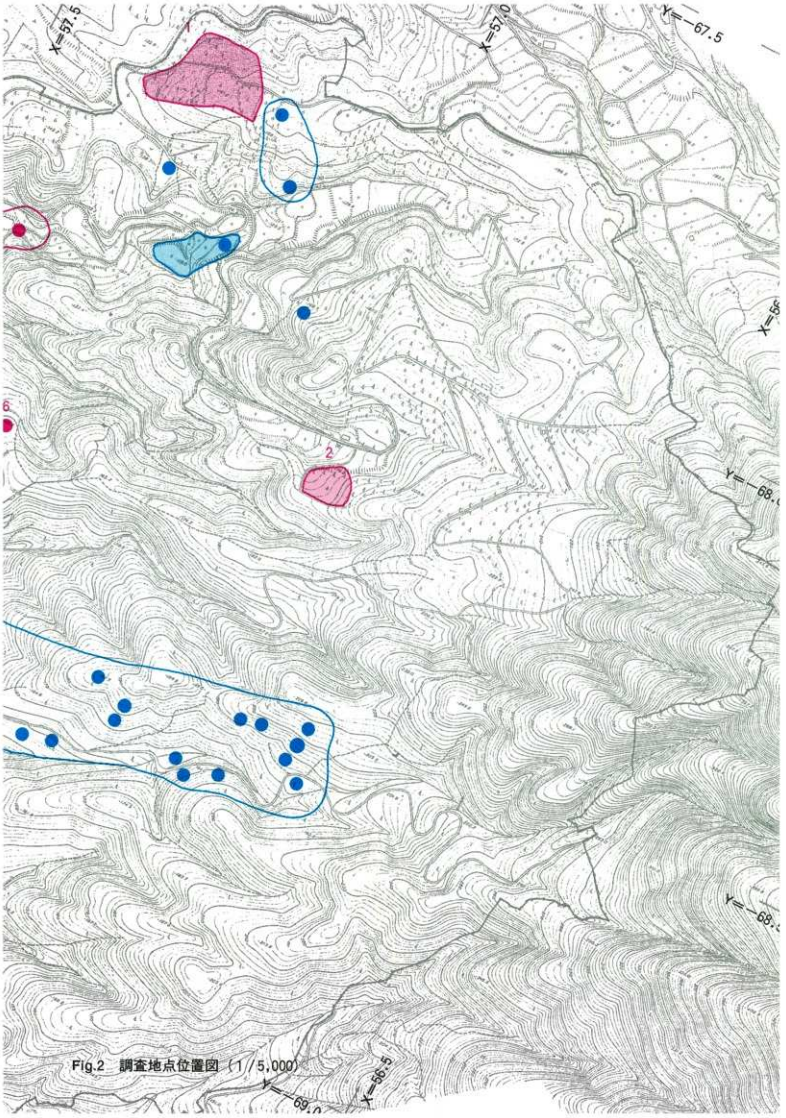


Fig.2　調査地点位置図（1／5,000）

Ⅱ．調査の記録

1．調査の概要

調査は事前の現地踏査によって得られた資料をもとに、遺跡が存在する可能性の高い地点の試掘調査から取りかかりました。試掘調査はバックホーにより少しずつ地表面を掘り下げながら、必要に応じて作業員を投入し遺構、遺物の有無を確認しました。また、工事側の要望で基本的には工区単位で発掘調査を行なうこととしました。そこで、まず最初にレジャーランド工区から着手し、その後A～D工区の順で試掘調査を行ないました。そして、現地踏査および試掘調査によって遺跡が確認された地点については、まず盛土施工などの設計変更により遺跡を現地に保存することが可能か否かの協議を実施しました。その結果、やむをえず現地に保存できない遺跡について発掘調査を実施しました。

発掘調査は基本的には次のような手順で進めてゆきました。まず、調査地点の現況の地形測量を行い、その後遺跡が確認された深さまでバックホーで掘り下げ、作業員を投入し遺構の検出、掘り下げを行ないました。これと並行して必要に応じて個々の遺構について実測図を作成し、写真撮影を行ないました。遺構の掘り下げが完了した後に、遺跡全体の実測図を作成し、全景写真を撮影して発掘調査を終了しました。

2．川原フスボリ遺跡

川原フスボリ遺跡はレジャーランド建設予定地内に存在していました。遺跡は標高160m～180mの丘陵に位置し、現況は杉林および蜜柑畑でした。現況の地形は南から北に向かって延びる丘陵をテラス状に造成しており、斜面の下方に遺構が残されていました。

遺構は土坑、溝、ピット、遺物包含層などがあり、主に1、2区で検出されました。

Fig.3　川原フスボリ遺跡全景

Fig.4　1区全景

出土した遺物は土師器、石器などですが、ほとんどが遺物包含層からの出土で量もあまり多くありませんでした。土坑、溝、ピットからはほとんど遺物が出土しませんでした。

出土した土器からみると、遺跡の時期は5世紀代以降であると考えられます。

3．川原田代遺跡

川原田代遺跡は練習場建設予定地内に存在していました。遺跡は標高180m～190mの谷部に位置していました。現況は蜜柑畑であり、緩やかな傾斜をもつテラス状の地形でした。しかし、試掘調査によってこのテラス状の地形は、蜜柑畑を造成する際に谷を埋めて造られたものであることがわかりました。

遺構は谷の斜面に土坑、ピットが存在し、谷の底には遺物包含層が検出されました。出土した遺物には須恵器、土師器、石器などがあります。出土した土器からみると、遺跡の時期は奈良時代であると考えられます。

また、ここからは縄文時代の石斧が出土しています。この石斧は樹木の伐採に使用していたと考えられ、縄文人がここから木材を切り出していたことがわかりました。

Fig.5　川原田代遺跡全景

Fig.6　A工区全景（南東から）

4．西堂赤井手古墳群

西堂赤井手古墳群は11番ホール予定地に存在していました。古墳群は標高120m～130mの丘陵頂部に位置し、現況は蜜柑畑、竹林、雑木林などでした。古墳は全部で３基発見され、いずれも円墳でした。古墳は蜜柑畑の造成などにより破壊を受けており、墳丘は失われ、石室も天井や側壁の石もどこかへ持ち去られていました。

１号墳は円墳と考えられ、墳丘の規模は約20mと推定されます。３基のなかで最も規模の大きなもので、主体部（遺体を埋葬した施設）は大型の横穴式石室で全長7.4m、羨道（石室の入口の通路部分）の長さ3.4m、幅1.1m、玄室（遺体を埋葬した部屋）の長さ４m、幅2.1mでした。石室の入口は西に向いていました。内部は残念ながら盗掘を受けており、遺物はまったく残されていませんでした。しかし、墓道（石室の入口に通じる道）からは墓前祭祀に使用されたと思われる土師器、須恵器が出土しており、墳丘の盛土の中からは地鎮のために埋納されたと思われる土器が出土しています。

２号墳も円墳と考えられ、墳丘の規模は約12mと推定されます。墳丘はほとんど失われていました。主体部は横穴式石室で全長3.5m、羨道の長さ1.3m、幅80cm、玄室の長さ2.2m、幅２mでした。石室の入口は南東に向いていました。石室もほとんど破壊されており、１段目の石積みが残されていただけでした。玄室には入り口のすぐ脇に100cm×80cmの区画が設けられていました。室内は盗掘を受けており、遺物はほとんどが持ち去られていました。石室および墳丘内から土師器、須恵器がわずかに出土しただけでした。

３号墳も円墳であり、墳丘の規模は約14mと推定されます。墳丘は他の２基と比べてよく残っていましたが、主体部はかなり破壊されていました。主体部は横穴式石室で全長4.3m、羨道の長さ１m、幅80cm、玄室の長さ3.2m、幅２mでした。石室の入口は南東に向いていました。石室内からは遺物は出土しませんでしたが、墳丘内から須恵器がまとまって出土しました。これらは古墳築造の際に地鎮のために埋納されたものであると考えられます。

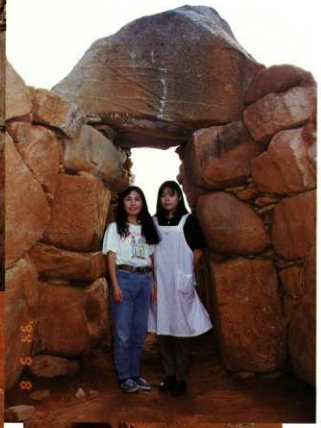
古墳が造られた時期は、１号墳と２号墳が６世紀後半、３号墳が６世紀中頃と考えられます。

Fig.7　西堂赤井手古墳群全景（南東から）

上：Fig. 8　1号墳調査前

左：Fig. 9　　同　全景

下：Fig.10　　同　石室の入口



上：Fig.11　石室の奥壁

下：Fig.12　墳丘から出土した土器

右：Fig.13　墓道から出土した土器

左：Fig.14　3号墳全景

上：Fig.15　2号墳石室

Fig.16　石室内の区画（2号墳）

Fig.17 墳丘から出土した土器（3号墳）

Fig.18　3号墳石室

Fig.19　西堂田代古墳群B群全景

5．西堂田代古墳群Ｂ群

西堂田代古墳群Ｂ群はＥ調整池予定地に存在していました。古墳群は標高90ｍ～100ｍの谷の斜面に位置し、現況は水田でした。古墳は２基が発見され、いずれも円墳と考えられます。古墳は水田の造成により破壊を受けていました。

１号墳は古墳の前半部が完全に破壊されていました。墳丘もほとんどが失われており直径は不明ですが、径10ｍ程の円墳と考えられます。主体部は横穴式石室ですが、羨道と玄室の前半部が破壊されていました。玄室の幅は1.9ｍですが長さは不明です。石室の入口は南西に向いていました。玄室内には遺物がほとんど残されておらず、わずかに須恵器、土師器が数点出土しただけでした。

２号墳は墳丘が完全に失われており、石室も羨道部が破壊されていました。しかし、築造の際に古墳の周囲に掘られた溝が残っており、これからみると直径14ｍ程の円墳と考えられます。主体部は横穴式石室で玄室の長さ2.8ｍ、幅1.8ｍでした。石室の入口は西に向いていました。石室内は盗掘を受けており、須恵器、土師器、耳環、鉄鏃などが、散乱した状態で出土しています。

古墳が造られた時期はともに６世紀後半と考えられます。

Fig.20　１号墳石室

上左：Fig.21　２号墳全景
上　：Fig.22　２号墳石室

Fig.23　石室から出土した土器（２号墳）

Fig.24　石室から出土した勾玉（２号墳）

6．西堂正永遺跡

西堂正永遺跡は17番ホールと８番ホール予定地に存在していました。遺跡は丘陵の先端から谷部にかけて存在していました。標高は85ｍ～105ｍを測ります。遺跡全体のうち約3/4は盛土施工により現地に保存することができ、残りの1/4をＡ地区、Ｂ地区の２つに分けて調査しました。

Ａ地区は南から北に延びる標高90ｍ～100ｍの丘陵上に位置していました。ここからは住居跡、炉跡、土坑、火葬土壙、ピット、遺物包含層などがみつかりました。出土した遺物には須恵器、土師器などの土器のほか、鉄器、石器などがあります。遺跡の時期は古墳時代から中世にいたると考えられます。

Ｂ地区はＡ地区の東側の谷部に位置していました。標高は100ｍ～105ｍを測ります。ここからは土坑、溝、ピット、遺物包含層などがみつかりました。出土した遺物は須恵器、土師器、石器などがあります。遺跡の時期は古墳時代以降であると考えられます。

Fig.25　西堂正永遺跡Ｂ地区全景

Fig.26　出土した土器

上　：Fig.27　西堂正永遺跡Ａ地区全景
上左：Fig.28　１号火葬土壙
左　：Fig.29　出土した土器

7．西堂田口古墳

西堂田口古墳は18番ホール予定地に存在していました。古墳は南から北へ延びる標高140mの丘陵上に位置していました。墳丘の頂部が削平されており、石室の天井石も失われていました。直径10mの円墳です。主体部は横穴式石室で全長3.6m、羨道の長さ1.7m、幅1.2m、玄室の長さ1.9m、幅2.1mでした。石室の入口は東に向いていました。この古墳では閉塞石（石室の入口をふさぐ石）がほぼ完全なかたちで残されていました。遺物は破壊、盗掘によりほとんど残されていませんでした。わずかに石室内から鉄器片が出土したのみでした。

古墳が造られた時期は６世紀後半～末？と考えられます。

Fig.30　調査前の古墳

Fig.31　石室

8．井原清太夫古墳群

井原清太夫古墳群は４番ホール予定地に存在していました。古墳群は東から西に延びる丘陵の先端とその下の谷に位置していました。標高は105m～120mを測ります。古墳は２基発見されていますが、そのうち谷に存在する１号墳を調査しました。丘陵上の２号墳はそのまま保存されることとなりました。

１号墳は直径14m程の円墳です。墳丘は南側が若干破壊されていましたが、ほぼ完全に残っていました。主体部は大型の横穴式石室で全長7.6m、羨道の長さ3.7m、幅1.4m、玄室の長さ3.9m、幅2.4mでした。石室の入口は南西に向いていました。石室内は盗掘を受けており鉄器、須恵器などがわずかに出土しただけでした。ただ、古墳の前面からは多量の須恵器が出土しています。これも墓前祭祀に使用されたものと思われます。

古墳が造られた時期は６世紀後半と考えられます。

右上：Fig.32　１号墳全景

右下：Fig.33　石室の奥壁

9．井原尾花屋敷遺跡

井原尾花屋敷遺跡は５番ホール予定地に存在していました。遺跡は南東から北西に向かって延びる丘陵上に位置していました。現況は水田で標高は115mを測ります。水田の造成により遺跡の大半は削平されており、残りは良くありませんでした。

この遺跡からは掘立柱建物（？）、土壙墓、土坑、ピットがみつかりました。遺物は土器片が少量出土したのみでした。

遺跡の時期は出土遺物が少ないためにはっきりしませんが、奈良時代以降であると考えられます。

Fig.34　建物の柱穴

10．井原尾花屋敷古墳群

井原尾花屋敷古墳群は５番ホール予定地に存在していました。古墳群は井原尾花屋敷遺跡の南東に位置し、同じ丘陵上にありました。現況は水田および雑木林で標高は120mを測ります。古墳は７基が発見されましたが、そのうち２基（４、５号墳）は現地に保存されることとなり、コースの造成により破壊される５基（１～３、６、７号墳）について発掘調査を行なうことになりました。

１号墳は水田の造成により墳丘が完全に失われており、規模については不明です。主体部は横穴式石室ですが破壊が著しく、奥壁の石材は抜き取られ、１段目の石材が残されて

Fig.35　２～７号墳

Fig.36　古墳群の全景

Fig.37　１号墳の石室

いるだけでした。石室の規模は全長5.9m、羨道の長さ2.8m、幅1m、玄室の長さ3.1m、幅1.8mでした。石室の入口は南西に向いていました。石室内は盗掘を受けており須恵器などがわずかに出土しただけでした。

古墳が造られた時期は6世紀後半と考えられます。

2、3、6、7号墳については現在調査中で、詳しいことについては今後の調査で明らかになってゆくと思われます。ただ、いずれの古墳も主体部は横穴式石室であることがわかっています。とくに、6号墳の主体部は小型の横穴式石室で、7号墳の主体部は石棺に近い超小型の横穴式石室であることがわかっています。これらは、これまでゴルフ場内で調査を行なってきた他の古墳とは少し様相を異にしているようです。

Ⅲ．おわりに

福岡雷山ゴルフ倶楽部は井原山山麓の丘陵地帯に位置し、その総面積は140haにおよびます。この広大なゴルフ場開発にともなう埋蔵文化財の発掘調査も、開始から約1年半を経てそのほとんどを終了しました。この間、施工主である株式会社ラインビルディングのご協力により、多くの遺跡を保存していただきました。しかし、残念ながらすべての遺跡を現地に保存することはできません。発掘調査を実施した後、工事によって破壊され、記録保存というかたちをとらざるをえなかった遺跡も数多くあります。これらの遺跡は我々の祖先の生活を明らかにしてくれる貴重な遺産であり、その記録は永く後世に伝えてゆかなければなりません。みなさまには今後とも文化財の保護について、より一層のご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

Fig.38　造成が進むゴルフ場

報告書抄録

フリガナ	ニシノドウ・イワラノブンカザイ
書名	西堂・井原の文化財
副書名	福岡雷山ゴルフ倶楽部建設に伴う埋蔵文化財調査の速報1
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	角　浩行
編集機関	前原市教育委員会
所在地	福岡県前原市大字前原（フクオカ マエバル マエバル）６２３
発行年月日	西暦　1995年３月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
福岡雷山（フクオカライザン） ゴルフ倶楽部（クラブ） 用地内遺跡群（ヨウチナイイセキグン）	前原市大字（マエバル） 井原（イワラ）・西堂（ニシノドウ） ・川原（カワベル）			33° 31' 00"	130° 15' 39"	1993.9.1 ～		ゴルフ場建設に伴う緊急調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
福岡雷山 ゴルフ倶楽部 用地内遺跡群	古墳群 集落 包含層	古墳時代 ～近世	円墳、住居跡、 掘立柱建物、 火葬土壙など	須恵器、土師器、陶器、 磁器、鉄器、石器、玉 類、耳環など	

西堂（にしのどう）・井原（いわら）の文化財

福岡雷山ゴルフ倶楽部建設に伴う
埋蔵文化財調査の速報1

1995年３月31日

発行　前原市教育委員会
福岡県前原市大字前原623番地

印刷　瞬報社写真印刷㈱
福岡市中央区大神５丁目４番16号
城戸ビル３F